

若木華実町会

当町会の区域は町会名に由来する「はなみ坂」を中心線とし、若木通りから続く海拔約30メートル台の高台から海拔およそ20メートルの環状8号線近くまでの標高差約10メートルの崖地であり、昭和28（1953）年7月、朝鮮戦争が休戦となった時期にこの区域一帯を所有し、火薬貯蔵施設としていた日本火薬から土地分譲されている。この年末の移住者はわずか3世帯であった。翌29年には移住者も増えてきて、未整備の電気を引くために東京電力から電柱3本を世帯当たり3千円の負担で購入したという話が伝わる。その臨時灯の電線が盗難に遭って各戸500円の負担が生じたとかの事件もあり、道路や下水も未整備の為、より暮らし易い環境整備のために昭和31年1月1日をもって当町会の前身「華実会」が14世帯により結成された。以後、最盛期には166世帯を数えたが現在の会員世帯数はその半分である。

※令和4年2月28日に発行した「板橋区町会連合会 創立60周年記念誌」の紹介文を掲載しています



一大イベント「もちつき大会」



「もちつき大会」立食交流会の様子